



河合 秀和

### 「明るい展望 でない状況」

総選挙の結果は「承知の通り。このような事件については、時々刻々に開票結果を伝えてくるテレビ、ラジオ、朝夕に情報を整理して教えてくれる新聞の迫力は大き

い。当然のことではあるが、週刊誌は週遅れ、月刊誌は月遅れにならざるを得ない。しかし、「後のものが先に立つ」という言葉もある。遅れて走っているものが、先頭走者よりもかえって先を見通すこともできるはずである。

いる。高森賢二と河合秀和の対談「崩壊するか自民一党支配」では、高森が「国民には、野党よりましだ」としている自民党に安定多数を与えれば、何をするかかわらんと「不安感がある。一方、野党のほうは中道と社共の分極化が進む」といことになる。これからの日本の政治は、有権者も選民に迷うというような伯仲状態というものが続いて、決定的な方向が出ない。そのために、本来解決

## 総選挙の結果を分析

# 伯仲が「革新的」効果

綿貫

すべき政策課題が解決できない。そういうあまり明るい展望がな

「革新」効果もたずかもしないという。他方で林になつて、急激な変動、強力な政権を

占める割合は、事前調査では新自由クラブと共産党の候補を支持する層に、一番高く、ともに二四

一人にやる気を使わせるような仕組みになりつつあることはたしかな事実である。歴史上の事実としていえば、江戸時代にはどの階級もすべての価値を独占すること

一人にやる気を使わせるような仕組みになりつつあることはたしかな事実である。歴史上の事実としていえば、江戸時代にはどの階級もすべての価値を独占すること

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「革新」効果もたずかもしないという。他方で林になつて、急激な変動、強力な政権を占める割合は、事前調査では新自由クラブと共産党の候補を支持する層に、一番高く、ともに二四

一人にやる気を使わせるような仕組みになりつつあることはたしかな事実である。歴史上の事実としていえば、江戸時代にはどの階級もすべての価値を独占すること

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「革新」効果もたずかもしないという。他方で林になつて、急激な変動、強力な政権を占める割合は、事前調査では新自由クラブと共産党の候補を支持する層に、一番高く、ともに二四

一人にやる気を使わせるような仕組みになりつつあることはたしかな事実である。歴史上の事実としていえば、江戸時代にはどの階級もすべての価値を独占すること

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに

「世界」の特集「八〇年代の沖野」もそのような関心から出発しており、西川潤「日本の内なる南北問題」、玉野井芳郎「地域主義と自治体」も、これまでに



綿貫治氏



白鳥令氏

### 問われる点 数一元主義

問題の若者層については「世帯ごとに入って三度目の特集を組んでいる。西欧、東欧、アメリカの若者たちについての報告は、その一因にヤング層の自民支持増加があることは疑いない

表の世界で身動きがつかない若者たちは、ちよつと元気のあるものなら、車、万引、セックスと裏の世界に走る。新聞の報道でおそらくだれでも知っている青少年問題のすべてが、一つの連関の中で

私は、「構造」という言葉は責任の所在をかきすように使われるのであまり好きでないが、問題が構造的にあること「政治」について、たんに増税による財政再建で力を見失いつつある。表題のクライシス(危機)とは、なによりも、歴史を作るべき人間の側の「主体の危機」としてとらえられている。

この創刊号には、きわめて多様な多方向な文章が盛り込まれているが、ここでは創刊のお祝いを述べてお